

2016年3月31日

四国アイランドリーグplus

事務局長 坂口裕昭

四国ILplus 2016開幕記者会見のご報告

四国アイランドリーグplusは、本日、3月31日に、香川県高松市内において、四国アイランドリーグplus2016開幕記者会見を行いました。

会見は三部構成で行われ、第一部では、リーグ及び各球団の経営陣より経営報告が行われ、あわせて、2016年度のリーグの取り組み及び役員人事の変更について報告がなされました。

第二部では、各球団の監督及びキャプテンより、2016シーズンのチームの特徴、意気込み、目標などが発表されました。

また、第三部では、読売巨人軍の堤辰佳ゼネラルマネージャー(GM)兼編成本部長をお迎えし、2016シーズンから実現することになった読売巨人軍(三軍)との定期交流戦について、対談形式でお話を伺いました。

リーグ及び各球団の経営報告、北米遠征2016実施概要、各球団の監督及びキャプテンのコメント、読売巨人軍の堤GM兼編成本部長のコメントにつきましては別紙のとおりです。

なお、役員人事の変更及び新規プロジェクト始動の内容につきましては、別途、リリースをさせていただきます。

四国アイランドリーグplus運営事務局 株式会社IBLJ

<http://www.iblj.co.jp>

〒761-8013 香川県高松市香西東町267-1

TEL 087-802-1580 FAX 087-802-1581 担当:加藤



四国アイランドリーグplus 2016 開幕記者会見資料

リーグ・球団経営報告

株式会社IBLJ
2016年3月31日

はじめに

日頃より、皆様のご支援、ご厚誼を賜り、厚くお礼申し上げます。多くのご支援に支えられ、当リーグは、今年12年目となるシーズンを迎えることができました。これもひとえに、皆様による、日々の報道のおかげであると、重ねて感謝申し上げます。

当リーグは、今年も新たなチャレンジに邁進して参ります。

今後も、引き続き、当リーグへのご指導、ご支援を頂きますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

四国アイランドリーグplus 理事長
鍵山 誠

目次

- ・ 四国アイランドリーグplus 経営報告（P 3～P 5）
- ・ 四国アイランドリーグplus 2016年度の取り組み（P 6～P 9）
- ・ 愛媛マンダリンパイレーツ球団 経営報告（P 10～P 13）
- ・ 香川オリーブガイナーズ球団 経営報告（P 14～P 17）
- ・ 徳島インディゴソックス球団 経営報告（P 18～P 21）
- ・ 高知ファイティングドッグス球団 経営報告（P 22～P 25）

リーグ概要

- リーグ名：四国アイランドリーグplus
- リーグ理事長：鍵山 誠
- リーグ運営会社：株式会社IBLJ
- 株式会社IBLJ代表取締役：森本美行
- 設立年：2004年
- 資本金 + 資本準備金：490,500,000円
- 社員数：4人（出向社員含）
- 主要スポンサー：四国コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社ファミリーマート、アサヒビール株式会社、豊国不動産株式会社、読売新聞大阪本社など

リーグ観客動員

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
年間動員数	93,433(166試合)	85,958(144試合)	91%	100,300(136試合)	117%
1試合最多動員数	2,488（愛媛）	3,148（愛媛）	127%	5,000	159%
1試合平均数	563	597	106%	738	124%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます（2016年は除く）。

【2015年観客動員実績と今季目標】

- ・ 2015年はシーズンを集中化（4月～5月、8月～9月）。6月には初の北米遠征を実施。
- ・ そのため、ホーム開催試合は22試合減少。年間動員数は前年比91%の85,958人。
- ・ もっとも、ファン離れの弊害は生じず、1試合平均の動員数は前年比106%と増加した。
- ・ 1試合最多動員数は愛媛球団の3,148人だった。
- ・ 2016年の動員目標は、4球団合計の観客動員数を前年比117%の10万人超とする。
2年連続で微増している1試合平均の動員数は前年比124%の738人とする。

リーグ収支・スポンサー数

(単位：千円)

	2014年	2015年	前年比	2016（目標）	前年比
収入	60,759	52,875	79%	67,500	130%
支出	59,830	77,610	116%	66,500	95%
経常利益	929	▲24,735	▲250%	100	260%
スポンサー数	16	15	93%	30	200%

【リーグ収支予測・目標】

- ・2015年、収入面では大口スポンサーからの収入が大幅減。支出面では北米遠征の経費増。これにより、(株)IBLJ単体の収支は、3期ぶりの赤字となった。
- ・もっとも、シーズンの集中化による経費削減等が功を奏し、4球団中3球団が黒字化。(株)IBLJ及び4球団（合計5法人）の経常利益の合計は▲10,175千円。いまだ赤字ながら過去最善の結果となった。
- ・2016年は、スポンサー営業等を強化し収入増を目指す。また、2回目となる北米遠征にかかる経費を削減。北米遠征を実施した上で黒字化することを目標とする。

四国アイランドリーグplus 2016年度の取り組み

～ 3つのキーワード ～

① 2回目となる北米遠征の実施

②NPB球団との交流の深化

～読売巨人軍（三軍）の定期交流戦参戦～

③注目度の高い新監督、選手による話題創出

① 2回目となる北米遠征の実施

昨年につき、選抜チームを編成し、6月9日から7月2日まで、カナダ、アメリカにまたがる独立リーグ「カナディアン・アメリカン・リーグ」（通称キャンナムリーグ）の公式戦19試合に参戦。 ※詳細は別添の「北米遠征2016実施概要」をご参照下さい。

<POINTS>

1. キューバ代表との親善試合を実施（7月2日）
2. 日本、四国のPRを全地域で実施
3. 選手の育成強化

昨年のNPBドラフト指名選手5名及び移籍選手1名は全て遠征参加者。

②NPB球団との交流の深化

福岡ソフトバンクホークス（三軍）に続き、読売巨人軍（三軍）が四国アイランドリーグplusとの定期交流戦に参戦決定。

<POINTS>

1. 読売巨人軍（三軍）が定期交流戦に参戦。
四国各県で各3試合、合計12試合を実施。
確かな実力を有するチームとの対戦により育成を強化。
2. NPB球団との試合による集客の増加や地域の活性化。
3. NPB球団との連携を強化し、球界での地位を向上させる。

③注目度の高い新監督、選手による話題創出

2016シーズンから加入した監督、選手の中で、特に注目を集めて話題となっているのは以下の3名。話題喚起から継続的なファンを獲得し、集客と収益の体制強化を目指す。

<POINTS>

1. 高知FD 駒田徳広監督
「満塁男」の異名を持つ2000本安打・名球会メンバー
2. 徳島IS 張泰山選手
台湾球界初の通算2000本安打を達成した台湾球界の至宝
3. 愛媛MP サブロク双亮選手
帝京高校野球部出身。お笑いと野球の二刀流。



愛媛マンダリンパイレーツ 球団経営報告

愛媛球団会社概要

- 球団名：愛媛マンダリンパイレーツ
- 代表者：薬師神 績
- 運営会社：愛媛県民球団株式会社
- 設立年：2006年
- 資本金：300,000,000円
- 社員数：3名、出向・その他4名 計7名
- 主要スポンサー：大王製紙(株)、(株)愛媛銀行、(株)ビージョイ、(株)フジ、太陽石油(株)、松山観光コンベンション協会、(株)STNet など

愛媛球団観客動員

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
年間動員数	27,871(42試合)	35,206(40試合)	126%	34,000（34試合） ※公式戦のみ	97%
1試合最多動員数	2,488	3,148	126%	5,000	158%
1試合平均数	664	880	133%	1,000	113%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

【2015年観客動員実績と今季目標】

- ・1試合平均も増え、年間総来場者数は2試合減の中で増員が図れました。
- ・昨シーズンに引き続き、北米遠征中の6、7月は、後期シーズンの観客動員増につながる地域密着活動を行います。

球団収支・スポンサー数

(単位：千円)

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
収入	148,281	157,885	106%	149,000	94%
支出	146,706	155,426	105%	146,000	94%
経常利益	1,575	2,459	156%	3,000	122%
スポンサー数	122	209	171%	125	60%

【球団収支実績・目標】

- ①2012年度より4期連続黒字決算となりました。
- ②2016年度目標数値は、2014年度実績（グランドチャンピオンシップを除く）をベースに計画しました。
- ③後援会員の拡充と来場者数の増加を目指します。
- ④「ファンと共に！地域と共に！」をスローガンに、更に地域に密着した「県民球団づくり」を推進します。



©2006 S.M.E

香川オリーブガイナース 球団経営報告

香川球団会社概要

- 球団名：香川オリーブガイナース
- 代表者：川畑 省三
- 運営会社：香川オリーブガイナース球団株式会社
- 設立年：2006年
- 資本金：33,050,000円
- 社員数：4人
- 主要スポンサー：株式会社セイア、東交バス株式会社、株式会社三祥、JA香川県ほか

香川球団観客動員

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
年間動員数	32,725（40試合）	20,719（36試合）	63%	34,000（34試合）	164%
1試合最多動員数	2,670	1,390	52%	3,000	215%
1試合平均数	818	575	70%	1,000	173%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

【2015年観客動員実績と今季目標】

- ・ 2015年観客動員実績は2014年と比較し、試合数の減少なども影響しトータルおよび1試合平均共に減少する結果となった。
- ・ 2016年は集客プランを見直して1試合平均1,000人が目標。具体的には、コスプレデー、グルメフェスタ、BBQプラン等試合以外でも球場で楽しんでもいただける企画を用意し集客を強化する。

球団収支・スポンサー数

(単位：千円)

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
収入	93,091	113,318	121%	98,000	86%
支出	117,508	92,902	79%	83,000	89%
経常利益	▲24,417	20,416	219%	15,000	73%
スポンサー数	107	114	106%	130	114%

【球団収支予測・目標】

- ・2015年はシーズンの短縮化に伴う大幅な経費削減と選手移籍金、育成料などの収入増額で黒字となった。
- ・2016年も単年度黒字化が目標。
- ・スポンサー営業の強化および前述の集客プランを強化して興行での収入増を図る。
- ・後援会の内容（特典、イベント等）を刷新し、新たにレディース会員枠やプレミアム会員枠を設け後援会会員の増加と後援会組織の強化を図る。



徳島インディゴソックス 球団経営報告

徳島球団会社概要

- 球団名：徳島インディゴソックス球団
- 代表者：南 啓介
- 運営会社：
株式会社パブリック・ベースボールクラブ徳島
- 設立年：2012年
- 資本金：37,000,000円
- 社員数：3名
- 主要スポンサー：（株）シエモア、一般社団法人徳島新聞社、ゆめタウン徳島、そごう徳島店、（株）徳島銀行、J Aバンク徳島信連、医療法人川島会・川島病院ほか

徳島球団観客動員

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
年間動員数	15,864（44試合）	12,351（34試合）	77%	13,260（34試合）	107%
1試合最多動員数	1,345	825	61%	1,500	181%
1試合平均数	361	363	101%	390	107%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

【2015年観客動員実績と今季目標】

2016年度は集客の山を作る取組を行う。

特に台湾との関わりが強くなった事で旅行＋観戦をパッケージにした集客や、球場内イベント（他競技とのコラボ）等を行って行き、ファンの共有化を目指したい。

また、組織として動いてもらえる取組を介して1試合当たりの観客動員数を上げて行きたいと考えている。

球団収支・スポンサー数

(単位：千円)

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
収入	87,795	58,290	66%	80,000	137%
支出	88,864	79,325	89%	80,000	101%
経常利益	▲1,069	▲21,035	▲1,968%	0	0%
スポンサー数	334	338	101%	350	103%

【球団収支予測・目標】

・まずはマイナスの出ない経営を行って行く。
 県内スポンサーのみならず、県外への営業も行う。
 また、今シーズンは外国人選手も多数在籍する為、県の掲げているインバウンド事業を増やすという政策に紐付き、海外選手を通じたインバウンド事業を増やし新しい収入源として取り組む。
 既存スポンサーさんに関しては付加価値を付けた提案営業を展開し既存スポンサーで15%のUPを目指して活動して行く。



高知ファイティングドッグス 球団経営報告

高知球団会社概要

- 球団名：高知ファイティングドッグス
- 代表者：梶田 宙
- 運営会社：高知ファイティングドッグス球団株式会社
- 設立年：2006年
- 資本金＋資本準備金：10,000,000円
- 社員数：7名
- 主要スポンサー：(株)セイア、(株)日本トリム、四国文教サービス(有)、明神水産(株)、(株)高知新聞社 他

高知球団観客動員

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
年間動員数	16,972(40試合)	17,682(34試合)	104%	19,040(34試合)	108%
1試合最多動員数	1,477	1,385	94%	2,000	144%
1試合平均数	424	520	123%	560	108%

※カッコの試合数はアイランドリーグ主催の公式戦、交流戦、ポストシーズンの優勝決定戦を含みます。

【2015年観客動員実績と今季目標】

・前年比では、試合数が6試合減ったものの約4%の増加となった。開幕戦など雨で集客が伸び悩んだが、共同の冠試合を行ったことや、後期には藤川球児選手の入団による影響もあった。その他昨年の途中からBBQエリアを設け、団体プラン(飲み放題付きなど)が好評だったことが要因と考えている。今年は、改めて現状の見直しと、セールスおよび広報を強化し、1試合平均560人を目標に設定している。

球団収支・スポンサー数

(単位：千円)

	2014年	2015年	前年比	2016年（目標）	前年比
収入	122,374	123,005	101%	110,000	89%
支出	116,378	112,999	97%	109,000	96%
経常利益	5,996	10,006	167%	1,000	10%
スポンサー数	451	563	125%	600	106%

【球団収支予測・目標】

- ・大口スポンサーの減額に対して、支出を抑えることで連続単年度黒字を目指す。
- ・6月、7月のオフシーズンの収益を意識し、新たな収入源の確保。
- ・農業事業の拡大。
- ・アカデミー事業の確立。

SHIKOKU ISLAND LEAGUE plus ALL STARS

北米遠征 2016



SHIKOKU ISLAND LEAGUE plus



四国から世界へ。



日本で初めてのプロ野球独立リーグとして誕生した四国アイランドリーグplus。これまで、四国アイランドリーグplusは、“人材育成”と“地域貢献”を2つの大きな柱に掲げ、少子高齢化が加速する四国の各地域において、野球の試合はもちろんのこと、年間800回を超える様々な地域貢献活動を行って参りました。

11年目のシーズンを迎えた2015年、四国アイランドリーグは、最強の選抜チームを結成して渡米。アメリカ、カナダの地において、現地の強豪独立リーグCan-Am Leagueと16試合の公式戦を行いました。まさに、“武者修行”。慣れない環境で本場の実力に触れた選手たちの野球選手としての成長という側面からはもちろんのこと、野球をキーワードに繰り広げられた現地での数々の交流イベントを通じて、これまで四国の地で地道に築き上げてきた交流の場を世界に広げ、国際交流を実践することができました。

そして、2016年6月。四国アイランドリーグplusは、再び、海を渡ります。昨年から試合数も増え、親善試合を含めて合計20試合。対戦相手は、昨年同様、Can-Am Leagueの6球団。さらに、同時期に同リーグへ参戦するキューバ代表チームとの親善試合が実現。今年は、日本、アメリカ、カナダにキューバを加えた4か国の野球交流が繰り広げられます。スタジアム内外での交流イベントも多数予定されており、昨年以上の成果が期待されます。

四国アイランドリーグplusは、四国と世界を結び付ける存在として、これからもチャレンジを続けて参ります。

【 遠征概要 】

参加リーグ：Canadian American Association of Professional Baseball

※2004年創設 ※通称“Can-Am League”

※MLB傘下のマイナーリーグ2A程度の実力を有する強豪独立リーグ

※過去MLBへ10名以上の選手を輩出

※元MLB選手や世界各国代表チームの主力級選手が多数在籍

参加チーム：Can-Am League 6球団 + キューバ代表チーム

参戦期間：2016年6月9日～7月2日

試合数：合計20試合（公式戦19試合、親善試合1試合）

観客数：600人～4,000人 ※1試合平均2,500人

その他：全試合インターネット中継、リーグHPで特設サイト開設
スタジアム内外での交流イベント
四国、日本の文化のプロモーション



《 北米遠征 2016 / 対戦スケジュール 》

- ★ 6月9日から24日間をかけてアメリカからカナダへ。遠征中の移動距離は1,350km！ ※ほぼ東京－鹿児島間の距離に相当
- ★ 北米の強豪独立リーグ“Can-Am League”の6球団と公式戦で19試合の真剣勝負！
- ★ 遠征の最後に戦う相手は、時を同じくしてCan-Am Leagueに参戦するキューバ代表チーム！

Date		Team	City	State	Country
9-Jun	Thu	Sussex County Miners	Augusta	New Jersey	U.S.A
10-Jun	Fri	Sussex County Miners	Augusta	New Jersey	U.S.A
11-Jun	Sat	Sussex County Miners	Augusta	New Jersey	U.S.A
12-Jun	Sun	Sussex County Miners	Augusta	New Jersey	U.S.A
13-Jun	Mon				
14-Jun	Tue	New Jersey Jackals	Little Falls	New Jersey	U.S.A
15-Jun	Wed	New Jersey Jackals	Little Falls	New Jersey	U.S.A
16-Jun	Thu	New Jersey Jackals	Little Falls	New Jersey	U.S.A
17-Jun	Fri	Rockland Boulders	Pomona	New York	U.S.A
18-Jun	Sat	Rockland Boulders	Pomona	New York	U.S.A
19-Jun	Sun	Rockland Boulders	Pomona	New York	U.S.A
20-Jun	Mon				
21-Jun	Tue	Quebec Capitales	Quebec City	Quebec	Canada
22-Jun	Wed	Quebec Capitales	Quebec City	Quebec	Canada
23-Jun	Thu	Quebec Capitales	Quebec City	Quebec	Canada
24-Jun	Fri	Trois-Rivieres Eagles	Trois-Rivieres	Quebec	Canada
25-Jun	Sat	Trois-Rivieres Eagles	Trois-Rivieres	Quebec	Canada
26-Jun	Sun	Trois-Rivieres Eagles	Trois-Rivieres	Quebec	Canada
27-Jun	Mon				
28-Jun	Tue	Ottawa Champions	Ottawa	Ontario	Canada
29-Jun	Wed	Ottawa Champions	Ottawa	Ontario	Canada
30-Jun	Thu	Ottawa Champions	Ottawa	Ontario	Canada
1-Jul	Thu				
2-Jul	Fri	<Special Game> Cuba's National Team	Trois-Rivieres	Quebec	Canada



- [illegible]



<http://www.iblj.co.jp>

Click !

<監督及びキャプテンのコメント>

■弓岡敬二郎監督（愛媛 MP）

チームの特徴は、去年と同様、守りを中心にやっていきたい。昨年のレギュラーが半分以上いなくなり、若い選手がレギュラーを争い、フレッシュさが溢れた試合ができるのではないかな。既存の選手と競い合ってもらいたい。チームとしての目標は2連覇とNPBへ選手を送り込むこと。

■鶴田都貴キャプテン（愛媛 MP）

2連覇を目指してチーム全体で頑張っていく。4年目なので、新人の選手を引っ張っていく。

■西田真二監督（香川 OG）

今シーズンのガイナーズは育成元年。この点はぶれることなく目標を実現化していく。うまくいかないことがあっても、これを乗り越えるためにさらに頑張っていくスピリッツを大切にし、戦える集団になって欲しい。若い選手には自立性をもって行動を大切にしてもらう。

■宗雪将司キャプテン（香川 OG）

チームスローガンが力戦奮闘なので、一戦一戦頑張りたい。チームとしては独立リーグ日本一になれるように取り組んでいく。昨年足りなかった「あと一歩」が何なのかを自覚し、それを若い選手たちに伝えながら頑張っていく。また、自分は何のために独立リーグで野球をやっているのかということをしつかりと認識し、今年も、自分を含め、チームから沢山NPBへ行けるようにしたい。

■中島輝士監督（徳島 IS）

主力となるような外国人選手が沢山入団したが、勝負のカギを握るのは日本人選手。理想は打ち勝つ野球。昨年は優勝チームから大差をつけられたので、今年は最後まで優勝戦線に絡めるよう、チーム一丸となって取り組んでいきたい。

■小林義弘キャプテン（徳島 IS）

新戦力が多い中、一昨年の喜びと昨年の悔しさを知っている数少ない選手として、外国人選手を含めてチームをまとめていきたい。そして、独立リーグ日本一を目指す。キャプテンとして、野球に取り組む姿勢や態度はもちろん、結果も残してチームを引っ張っていきたい。

■駒田徳広監督（高知 FD）

大幅に選手は変わっていないが、中身が変わったチームにするよう選手たちには伝えている。成功する秘訣は、自分を変える事。自分を変えると周囲も変わる。私自身の現役時代、敵地に乗り込んだ時には、ファイティングポーズを取るくらいの気持ちでやっていた。そういう意気込みでやっていきたい。

■河田直人キャプテン（高知 FD）

チームはとても明るい。監督の様に前だけを見て頑張りたい。キャプテンとして結果を出すのは当たり前。それだけでなく、声を出してチームを引っ張れるように頑張る。

<堤 GM 兼編成本部長のコメント>

戦力の底上げを図るために三軍を創設してから間もないが、この数か月の間だけでも、独立リーグ出身選手の野球に対する取り組み方やハングリーさは、既存の選手にも見習って欲しいくらいのもがある。

このような意味で、四国アイランドリーグ plus の選手と定期交流戦で実戦を重ねることによって得られるものは大きいと思う。

独立リーグの選手には、平均的な選手ではなく、守備、足など一芸に秀でた選手を目指して欲しい。

読売巨人軍として、なかなか四国で試合をする機会もなかったため、定期交流戦を通じて、四国の方々と交流させて頂くことも楽しみである。

地域に根差した活動を行っている独立リーグの価値は非常に高い。読売巨人軍としても、地域のファンの皆様との交流に参加し、多くの子供たちに野球選手を身近に感じてもらえるような環境を作っていきたい。